

# せたがやの文化財

No.028

編集・発行

世田谷区教育委員会事務局  
生涯学習・地域・学校連携課文化財係  
〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27  
Tel 03-5432-2726 Fax 03-5432-3039  
<http://www.city.setagaya.lg.jp>  
発行日 平成28年2月18日  
再生紙を使用しています

新しく指定された文化財

区指定有形文化財（建造物）旧山田家住宅



成城四丁目に建つ洋館、旧山田家住宅が平成28年2月1日に区指定有形文化財に指定されました。これで、区指定文化財は80件となり、建造物では21件目の指定となります。

旧山田家住宅はハケと呼ばれる崖線（国分寺崖線）上にあり、ホタルの自生地として知られるみつ池\*を眺望できます。緑豊かな環境の中、瀟洒な洋館での生活はどんなものだったのか、思いを馳せてみるのもよいでしょう。

住宅は平成29年度より一般公開する予定です。

\*「神明の森みつ池特別保護区」=制限付きサンクチュアリ。開放は年数回の観察会のみ。

## 区指定有形文化財（建造物）

きゅう やまと だ け じゅうたく  
**旧山田家住宅**

1棟

附 建築申請資料 10枚  
不動産取得税資料 3枚 封筒付  
指定年月日 平成28年2月1日  
所 有 者 世田谷区  
大 き さ 建築面積 188.25m<sup>2</sup>



上：玄関ポーチ  
下：玄関建具の  
ステンドグラス



### ◆ 旧山田家住宅の歴史

旧山田家住宅は昭和12年（1937）頃に建築されました。建築主は樋崎定吉という人で、アメリカで事業を成功させた実業家で帰国後にアメリカ風住宅の影響を受けてこの住宅を建設したと伝わっています。終戦後は、一時進駐軍に接収されていたとも言われています。樋崎氏については詳しいことが分かっていませんが、昭和35年（1960）には住宅を売却し、手放しています。

翌36年には、画家で「南画院」（現特定非営利活動法人南画院）の代表として活躍した山田盛隆氏（雅号・耕雨）が購入して住まいとしました。

### ◆ 建物の特徴

住宅は洋風の寄棟造りの建物で、屋根を褐色のフランス瓦葺き、下屋と庇は銅板葺きにしています。壁面はクリーム色のリシン仕上げで、腰に石張りが施されています。

建物は前面道路に平行に建てずにやや東に振り、ほぼ南面して建っています。玄関を南東隅に配置していますが、前面道路から門、玄関というアプローチを意識した配置計画がとられ、さらに玄関ポーチ

は向って右手の柱をなくし、2方向に階段を設けることで、開放的なアプローチを演出しています。また、玄関ポーチの壁面に2種類のスクラッチタイルを使って玄関周りにアクセントを添えています。

内部は1階、2階とも中廊下を配し、機能ごとに居室が細かく分けられています。中廊下の北側は主に水回り、南側には主に居室を配しています。1階は南東に主玄関を配し、玄関前室の広間、そこから西側に食堂と居間、東側に客間が配されます。食堂と居間は両側に引き込む板戸で仕切られ、開放すると大きな空間として使用できます。居間の南側には屋根付のベランダーが設けられ、当初は玉石洗い出しのタタキ床で、腰壁を回し上部を開放にした半外部でした。ここは建設後早い時期に床が張られ、腰壁上部には窓ガラスが立て込まれ室内としました。ベランダーの屋根は当初より2階から利用する露台になっています。

2階は家族と客用の寝室と書院造風の日本間、納戸、便所が配されています。階段は食堂から上がる主階段と台所の南側に設けられた内用の階段の二つがあります。

新しく指定された文化財

た。敷地は住環境に配慮した成城の住宅らしい屋敷構えを現在も備えています。

### ◆ 公開に向けて

旧山田家住宅は平成28年度に耐震補強と一部バリアフリー化の工事を実施します。翌29年度から一般公開の予定です。

学園都市として良好な住環境を目指していた成城学園住宅地の雰囲気をよく残す住宅です。公開後にぜひ訪ねてみてください。

(所在地:成城四丁目20-25・成城みつ池緑地内)



上:ベランダの上は露台になっている

下左右:寄木張りの床

居室はほぼ洋室で、寄木張りの床や統一した意匠の上げ下げ窓を多用しているところが特徴的です。特に寄木張りは廊下にも施され、部屋によってデザインを変えるなど凝った仕様になっています。

この住宅にはRC造の地階があります。ここには石炭(若しくはコークス)で焚くボイラーがあったといい、邸内はセントラルヒーティングで暖房されていました。居室や廊下にはラジエーターが設置されていましたが現在はほぼ取り外され、ラジエーター2基が残っているのみです。

住宅のある一帯はかつてハケと呼ばれた崖線です。台地上の周辺地域は成城学園が開発分譲した学園町で、田園郊外の良好な環境の中に建っています。



住宅と庭、奥は崖線の緑地



食堂



玄関脇の広間



2階のトイレ



建設当初からある照明器具

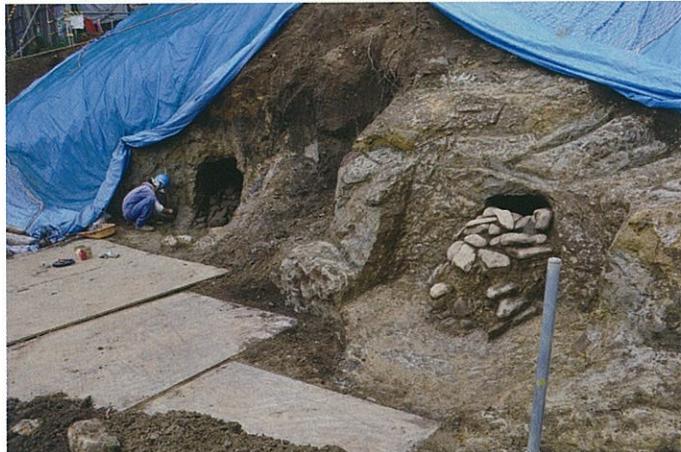
## 平成27年度の発掘調査から

## 新発見の遺跡＝殿山横穴墓群

平成27年6月、大蔵五丁目の東京外かく環状道路建設現場で国分寺崖線の斜面を掘削中に2ヵ所の横穴がみつかり、古墳時代の横穴墓であることが確認されました。これらは新たに「殿山横穴墓群（世田谷区遺跡番号332）」として埋蔵文化財包蔵地に登録され、区教育委員会が緊急発掘調査を行いました。

世田谷区ではこれまでに23ヵ所で127基にのぼる横穴墓が発見されていました。これらは通常、標高31～35m前後の東京パミス層と呼ばれる黄色い火山灰層を目印に造られていますが、殿山横穴墓群はそれより10メートル余りも下の標高20m前後の上総層群と呼ばれる岩盤層に造られていたため、これまで見つかっていませんでした。

今回発見された2基からは人骨の一部が出土していて、1号墓には人骨（歯）、鉄製品（鍔付鉄刀1、刀子1、鐵鏃10）、玉類（碧玉製管玉4、メノウ製勾玉2、コハク製棗玉4、石製丸玉19、ガラス小玉

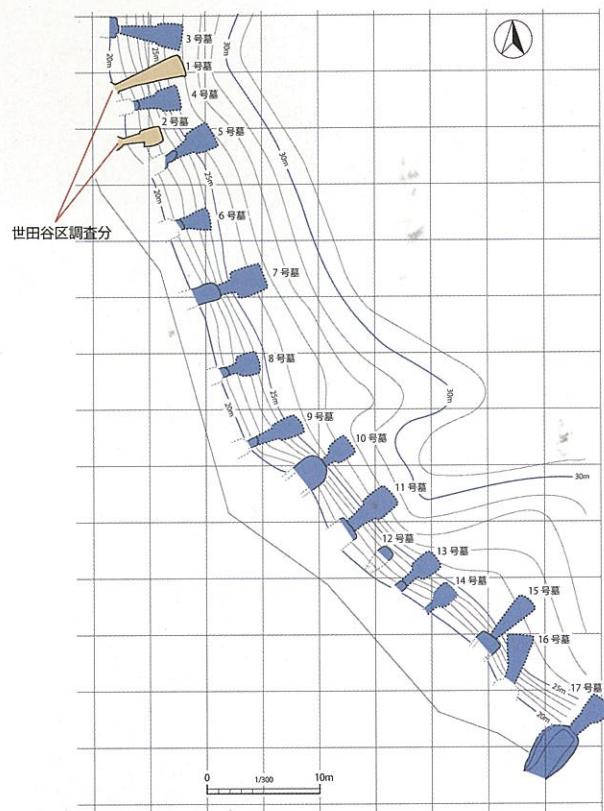


横穴墓の発見状況 1号墓(左)・2号墓(右)

15) や須恵器の提瓶が副葬されていました。このことから喜多見地域の有力者が葬られたと考えられます。

その後、引き続いて確認調査を実施したところ、さらに15基の横穴墓が確認されました。これらは東京都埋蔵文化財センターによる調査が行われ、鉄製品や玉類、須恵器、土師器などが出土しています。

これらの副葬品からみて、殿山横穴墓群は古墳時代後期、6世紀末から7世紀中頃にかけて造営された墓地であると考えられます。

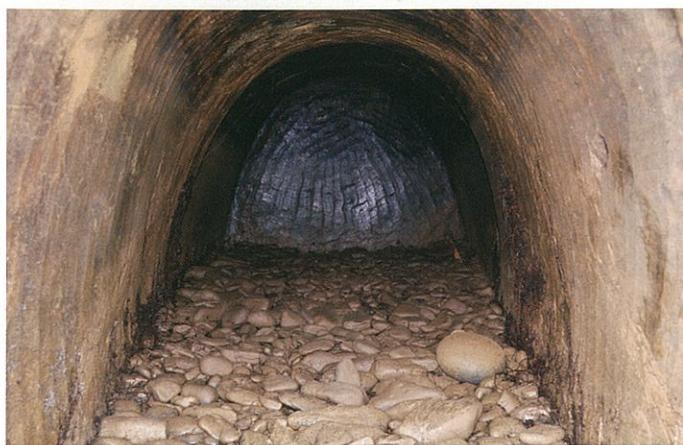


横穴墓群全体図（概念図）



殿山横穴墓群全景（1・2号墓は埋め戻されている）

見学会資料より転載（写真撮影：東京都埋蔵文化財センター）



1号墓の内部（床は石敷きで、右側に須恵器がみえる）

## その他の発掘調査

平成27年度は、東京外かく環状道路建設に伴う調査が4件、その他に、住宅建築工事などに伴う調査を5件行いました。

### 上神明遺跡第28次調査（成城四丁目）

下水道管理設工事に伴う道路部分の調査で、縄文時代早期・中期、古墳時代前期・後期の遺構から、縄文土器、石器、土師器、須恵器などが出土。

### 桜木遺跡第11次調査（桜一丁目）

都道補助第128号線建設に伴う調査で、縄文時代中期の住居・ピットなどから縄文土器、石器などが出土。

### 下野田遺跡第1次調査（喜多見六丁目）

東京外かく環状道路建設に伴う調査で、古墳時代前・中期、平安時代の住居・掘立柱建物などの遺構から土師器、須恵器などが出土。（平成28年度にかけて継続調査）

### 瀬田遺跡・瀬田城跡第37次調査（瀬田一丁目）

個人住宅建築に伴う調査で、縄文時代中期、平安時代の遺構から、縄文土器、石器、土師器、須恵器などが出土。

### 田直遺跡第1次調査（大蔵五丁目）

東京外かく環状道路建設に伴う調査で、旧石器時代石器製作場や縄文時代前期・後期の遺構・遺物が出土。

また、かつての野川（旧入間川）の流路から縄文土器・石器などの捨て場が発見されています。

### 八幡山遺跡第5次調査（八幡山二丁目）

宅地造成に伴う調査で、縄文時代中期の土坑・ピットなどから縄文土器・石器が出土。

### 松原羽根木通遺跡第16次調査（羽根木二丁目）

宅個人住宅建築に伴う調査で、縄文時代中期の住居・ピットなどから縄文土器・石器が出土。



玉類



須恵器（提瓶）

## 文化財啓発事業

### 旧清水邸書院の公開事業

区登録有形文化財「旧清水家住宅書院」（区立二子玉川公園帰真園内 玉川1-16）において呈茶サービスを実施しました。

開催：平成27年6月7日及び11月23日

内容：抹茶と和菓子セット（有料）



みどりと水に囲まれた旧清水邸書院で呈茶のサービス

### せたがや文化創造塾

開催：平成27年9月26日から連続6日間  
教育センター（弦巻3-16）にて、下記の7講座を開催しました。

講座名	講師	主
茶碗を語る	竹内 順一 永青文庫館長	
世田谷の民俗芸能	小野寺節子 国士館大学文学部講師	
縄文時代における 廃屋墓葬をめぐって	山本 晉久 昭和女子大学大学院教授	
世田谷区の戦争遺産	堀内 正昭 昭和女子大学大学院教授	
被災民具から見た	石野 律子	
文化財と地域性	神奈川大学常民文化研究所客員研究員	
和本の世界	神林 尚子 鶴見大学文学部講師	
江戸時代の災害と復興	森安 彦 国文学研究資料館名誉教授	

### 等々力界隈の史跡名所めぐり

#### 社寺と等々力の歴史

開催：平成27年11月13、14日

旧等々力村の中心に位置する満願寺、等々力不動尊から玉川神社をめぐり、歴史解説を行いました。

### 第8回野毛古墳まつり

開催：平成27年10月18日

区立玉川野毛町公園（野毛1-25）にある野毛大塚古墳は、帆立貝形の古墳としては日本最大級の古墳です。貴重な古墳について知る機会として野毛古墳まつりを開催し今年で8回目となりました。



かわいいクラフトが大人気でした

今回より、古代の住居や古墳をテーマに紙で工作をする「紙風景」コーナーがあらたに加わり、人気を呼んでいました。このほかミニ土器作り、古墳クッキーの調理実演も好評で「古墳について知らないことがたくさんありました。毎年必ず参加したい」と声が寄せられました。

### 第10回世田谷区遺跡調査研究発表会

開催：平成27年11月28日

今年度発掘調査を行った殿山横穴墓群発掘調査報告と、地域の横穴群の成り立ちを考察する講演会を、教育センターにて行いました。



約70名の参加者が熱心に聴講

## 郷土資料館

### 一特別公開一

#### ◆区指定有形文化財

「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」

—鮮やかにみがえる大蔵本村—

平成25年度に修理された「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」(原本)と、昭和62年に作成し郷土資料館で収蔵している複製、デジタル復原により作成された複製(8ページ下写真)の3点の絵図と関連資料等を展示しました。

#### 主な展示品

「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」明治7年(1874)

「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」(複製)

「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」(デジタル復原)

「吉良頼康印判状」弘治2年(1556)

「大蔵村絵図」石井至穀作成 文化10年(1813)

須賀神社の湯花神事写真パネル

旧安藤家住宅(次大夫堀公園民家園)解説パネル他

会期:平成27年7月22日~9月6日

デジタル復原により作成された絵図は、今後郷土資料館常設展のテーマにあわせて適宜展示される予定です。また、絵図を修理した報告、デジタル復原の内容については平成27年度『世田谷区文化財調査報告集25』として刊行する予定です。

### 一特別展一

#### ◆世田谷の土地—絵図と図面を読み解く—

郷土資料館が所蔵する近世の村絵図、裁許絵図をはじめ、近代の地租改正地引絵図、現代の耕地整理・区画整理図などを展示しました。

#### 主な展示品

瀬田村諏訪河原村寄洲訴訟裁決書及絵図 元禄5年(1692)

新町村絵図(写真) 文化3年(1806)

世田谷領二十ヶ村絵図 文化3年(1806)

上北沢村地租改正地引絵図 明治10年(1877)

玉川全円耕地整理組合設計図 昭和9年(1934)

会期:平成27年11月3日~12月6日



## 民家園

### 一企画展一

#### ◆世田谷の酒屋事情 角打ち・御用聞き・量売り

昭和初期の酒屋は酒だけでなく、醤油、味噌、油の量り売りから、砂糖や缶詰、傘、履物、荒物、たばこといったさまざまな商品をあつかう現在のスーパーマーケットのような存在でした。酒屋店員がみずから各家に注文(御用)を聞いてまわり、販売した商品を帳簿で管理、後日まとめて請求するつけ払い制が主流で、客と酒屋は自然に信頼関係を築いていたといえます。時代に合わせて変容していった世田谷の酒屋を紹介しました。

#### 主な展示品

「鎌田酒店金看板」

「清酒特約店看板」

「橋和屋本店」銘通い  
徳利

会期:平成27年11月1日~平成28年1月1日



鎌田酒店金看板の再現

#### ◆民家園座学 戦後70年特集

「戦争が全国の巨木を伐った」

—木船を造ってお国のために—

戦時中、木造船を造るため各地の巨木が姿を消しました。木の文化史から戦争をみつめなおしました。

講師:瀬田勝哉氏(武蔵大学名誉教授)

開催:平成27年12月13日

#### ◆岡本民家園35周年特別展示

開園までのあゆみ(写真展)

伝統技術にささえられ甦った古民家・旧長崎家住宅主屋の建築過程を紹介しました。

会期:平成27年5月5日~8月16日(土日祝のみ)

#### ◆岡本の歴史と文化

昭和初期の岡本地区について地形模型と風景写真を展示し、土地の記憶をたどりました。

会期:平成27年9月1日~12月27日、28年1月1日

## せたがやの文化財によこうこそ

### いたえちゃくしょくおおくらひかわじんじやほうのうえす 板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図



平成25年度に修理された「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」(原本)



色彩のデジタル復原に基づいて作成した複製品

「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」は、明治7年（1874）に、大蔵村の村民が同村の鎮守社・氷川神社に奉納したもので、明治初頭における大蔵本村の景観を写しています。当時の農村習俗を知る上で貴重な歴史・民俗資料であり、昭和60年に区の有形文化財（絵画・彫刻）に指定されました。

絵図は、彩色の剥落も目立ちますが、胡粉、群青、緑青、茶などの色が認められ、当初はかなり鮮やかな絵図であったと推測されていました。

しかし経年の劣化によるものか、絵図には彩色

の浮き上がりのほか汚れやカビ、虫食いが見られ、枠の楔が失われて継目に隙間が生じるなどの損傷も認められるようになっていました。

このため、世田谷区では平成24年度に破損状況調査、光学的調査を行い、翌年に修理を実施しました。また26年度には光学的調査の成果をもとに、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所の協力を得て絵図の当初の彩色のデジタル復原を行い、それに基づく実物大の複製品を作成しました。

— 7 ページに関連記事 —